



国際交流事業助成報告書

平成28年8月1日

公益財団法人 小西国際交流財団 御中

【事業報告者】

申請団体/ 代表者名	平岡 敦	
住 所	〒	TEL FAX
担当者名		
自宅住所	〒	TEL
mail アドレス		

※個人申請の場合は申請者名を記入

【事業の概要】

1. 事業名称又は課題

「人文社会系セミナー～フランス文学、翻訳家の仕事場から～」の開催

2. 共催及び後援等支援団体名

主催 公益財団法人日仏会館、日仏会館フランス事務所

後援 日本フランス語フランス文学会

3. 助成金額と申請時の助成金の使途（実際の使途は、6. 会計報告に記入して下さい）

(※ 他の機関からの助成がある場合は、この事業に要する総費用 円)
〈当初の助成金の使途〉 ※ 当初の予定と差異が発生している場合は、理由を記入して下さい

4. 事業の実施概要

日時:2016年7月6日(水) 18:00-19:30

場所:日仏会館ホール

実施概要:本企画は、ガストン・ルルー『オペラ座の怪人』(光文社古典新訳文庫、2013年)で第21回日仏翻訳文学賞を受賞した平岡敦による講演会である。これまで72作品ものフランス文学翻訳を手掛けてきた経験を振り返りながら、翻訳家としての仕事の現状と、翻訳作業現場について語った。また、ディスカッサントに、日仏翻訳文学賞日本側選考委員長を務める野崎欽氏を迎え、1つの作品をフランス語から日本語へ翻訳する際の苦労(構造上の問題や語彙、リズム、オノマトペの使用など)や、日本人読者にフランス文学の魅力を存分に伝えるための工夫について議論を深めた。

5. 実施した事業の成果及び改善点

事前申込の段階で定員に達し、申し込みを締め切るほどの反響であったことに驚いた。当日、多くの参加者でにぎわう様子を見て、普段は表舞台に出ることの少ない「翻訳家」の仕事場に対し、これほどまでに大きな関心を寄せて頂けたことを大変嬉しく思った。

当日はまず、第21回日仏翻訳文学賞を受賞したガストン・ルルー『オペラ座の怪人』を翻訳するに至った経緯とこの作品の魅力を紹介した後、実際に *Le Fantôme de l'Opéra* の冒頭の一節を例にとり、それに対する既訳と平岡訳とを比較しながら、拙訳のオリジナリティーを披露した。

また、これまで翻訳を手がけた作品の書影をいくつかスライドに映しながら、野崎氏と共に我が足跡を振り返り、各作品に対する思いや、翻訳作業中に直面した問題及び解決法を紹介した。旧知の仲である野崎氏との思い出話なども登場し、非常にリラックスした雰囲気の中で対談を行うことができた。本講演会は、フランス文学に通じた方にも、一般の参加者にも、十分に楽しんでいただけたのではないかと考えている。

講演後には、参加者との質疑応答の時間も設けられ、翻訳家の仕事場に対し、積極的に興味を示して頂けたことは励みとなった。翻訳において大事なことは、読者に作品の魅力を伝えるために、小さな工夫の積み重ねを行うこと、また単にその作品を愛するだけではなく、翻訳家は作品を提示する立場であるという視点を常に持ち続けることである。この「職業的翻訳家」としてのポリシーや心構えを参加者と共有する機会を持つことができたことは大変光栄に思っており、日仏文芸翻訳家を志す人々にとって微力ながら役に立つことを願ってやまない。



